

やまだ防災だより

第9版 令和6年2月1日
発行・編集
山田町総務課 危機管理室
0193-82-3111
内線415、429

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、最大震度7の地震による家屋倒壊や土砂災害、津波が発生し、1000人を超える人的被害や7000棟以上の住家被害など、甚大な被害が発生しました（東日本大震災では、当町は震度5強）。いつ発生するか分からない災害には、日頃からの防災に対する意識や備えが非常に大切です。いざという時に安全な避難行動がとれるよう、今一度「備え」を確認してみましょう。

地震が起きる前の備え

地震を知る

震度とは、地面の揺れの強さで表します。岩手県が公表した地震・津波被害想定調査において今後起こると予想される日本海溝・千島海溝沿いの地震で山田町は最大震度6強が想定されています。

震度階級	人の体感・行動
0	人は揺れを感じない。
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
5強	大半の人が物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
6弱	立っていることが困難になる。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
7	

(参考：気象庁震度階級関連解説表)

防災訓練などの防災活動に参加しましょう

地震の時に安全な避難行動を行うには、日頃からの訓練が欠かせません。町では、8月30日から9月5日までの防災週間に合わせて9月の第一日曜日に防災訓練を実施しています。避難場所や避難経路の確認のため、訓練に参加するようにしましょう。



家庭で話し合しましょう

- 家の中でどこが一番安全か
- 避難場所、避難路はどこか
- 非常持出袋はどこに置いているか
- 家族との連絡方法の確認



被災地では、連絡手段が限られていますので、公衆電話等から利用できるNTTの「災害伝言ダイヤル171」やスマートフォンや携帯電話の「災害用伝言板(web171)」などのサービスがあるので利用方法を知っておきましょう。

- 地震により玄関が開かないなどが考えられるので、自宅から外への避難経路は複数のルートを考えておきましょう

備蓄品・非常持出品を備えましょう

- 目安として最低限3日程度の水（一人当たり3L/日）や食料を備蓄しましょう
- 循環備蓄で無駄を出さず、常に新しい食料を備蓄しましょう
- 玄関や寝室など持ち出しやすいところに置き、すぐに持ち出せるようにしておきましょう
- 家族構成や季節に合わせて、内容を見直すようにしましょう

【備蓄品の例】

- 食料 ・ 水 ・ 救急用品
- カセットコンロ
カセットガス（一人6本/週）
- 防寒具
- ティッシュ、オムツなどの生活用品



【非常持出品の例】

(最小限度の必需品)

- 食料 ・ 水 ・ ラジオ ・ 懐中電灯
- 現金・通帳 ・ 免許証や健康保険証、マイナンバーカードのコピー
- 常備薬 ・ 衣類 ・ タオル ・ マスク
- ウェットティッシュ ・ 衛生用品など

(家族構成による必需品)

- 母子手帳 ・ ミルク・ほ乳瓶
- オムツなどの生活用品
- ペットフード・ふん尿の始末用品



地震のときにとるべき行動

屋内にいるとき

- 家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら丈夫な机の下などに隠れる
- あわてて外に飛び出さない
- 料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない
- 扉を開けて避難路を確保する

屋外にいるとき

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる
- 建物の壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる
- 海岸付近の場合は、避難指示等を待つことなく、安全な高台へ避難しましょう



山やがけ付近にいるとき

- 落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる

ハザードマップで再確認！

土砂災害警戒区域等や浸水想定、避難場所は山田町総合防災ハザードマップで確認できます。お持ちでない世帯は、お問い合わせください。



自動車運転中



あせらず落ち着いて行動を

- あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけずゆるやかに速度を落とす
- ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する
- 避難するときはキーを付けたまま、ドアロックはせず、連絡先メモを残す

町からの避難情報等を「インフォやまだ」で確認しましょう

町では、災害時の避難情報などをいち早く確実に町民の皆さんにお知らせするため、情報配信システム「インフォやまだ」を運用しています。

「インフォやまだ」は、お持ちのスマートフォンなどで利用することができます。どこにいても情報を受け取ることができ、配信履歴も残るので、何度でも読み返すことができます。

右記QRコードから各アプリストアにアクセスし、登録をお願いします。



iPhone端末など



Android端末

北海道・三陸沖で想定されている巨大地震や津波に備えましょう

日本海溝・千島海溝沿いでは過去に巨大地震が繰り返し発生しており、大きな地震の後に、さらに大きな地震が発生した事例もあります。大きな地震が発生すると、それに続く「後発地震」の発生可能性が、平時より高まると考えられます。このため、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合に、気象庁から「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表され、注意が呼びかけられます。

注意情報の発表で備えを再確認！

「後発地震」が必ず発生するとは限りませんが、この情報を見聞きしたら、地震への備えの再確認と、「後発地震」の発生時にすぐに津波から避難できる準備をお願いします。

また、地震は突発的に発生することの方が多いので、日頃から家具等の固定や避難場所・避難経路の確認等を行い、地震に備えておきましょう。

右記のQRコードで内閣府からの情報も確認してみましょう。



[マンガ・リーフレット]



[動画]